



令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和8年4月23日(木)及び24日(金)、6年生を対象に「令和8年度全国学力・学習状況調査」を実施いたしました。過日、札幌市教育委員会より市立小中学校分の調査の結果が発表されました。本校でも、調査の結果を分析し、課題及び改善の方向を検討し、結果をまとめましたのでお知らせいたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご留意ください。

1. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語・算数)

- ①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容や、様々な課題解決のために構想を立て実践し評価・改善する力など。
- 上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2. 実施日

令和8年(2026年)4月23日(木) 教科に関する調査(国語・算数)

令和8年(2026年)4月24日(金) 質問紙調査

【全国の平均正答率と比較して、以下のようにお伝えします。】

- ・ 上回っている。
- ・ ほぼ同程度であるが、やや上回る。
- ・ ほぼ同程度であるが、やや下回る。
- ・ 下回っている。

《国語科》

本校の概要

<知識及び技能>

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

・上回っている。

【情報の使い方に関する事項】

・上回っている。

<思考力・判断力・表現力等>

【話すこと・聞くこと】

・上回っている。

【書くこと】

・ほぼ同程度であるが、やや下回る。

【読むこと】

・上回っている。

今回の調査における課題

・ほとんどが上回っているという結果である。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「読むこと」が高い。

・選択式、記述式、共によくできている。

・筋道の通った文章となるようにするための文章構成や展開などの工夫について考えることをやや苦手としている。

・設定された条件を盛り込みながら自分の考えを書き表す問題において、無回答率が全国平均と比較してやや高い。資料の中から適した事柄を選び出し、活用することをやや苦手としている。

改善の方向

・「書くこと」に関しては、言語活動を通じて自分の考えを表す学習を継続して取り組んでいく。言葉の多義性に気付いたり、相手意識や条件意識をもって伝え合ったりする経験を積み上げることで、文章全体の構成や展開をについて考える力につなげていく。

・国語で付けた「書く力」を他教科でも活用することで、定着を図る。例えば総合的な学習における報告文や社会科におけるパンフレットの作成などの活動を増やしていく。

《算数科》

本校の概要

【数と計算】

・ほぼ同程度であるが、やや下回る。

【図形】

・上回っている。

【測定】

・下回っている。

【変化と関係】

・下回っている

【データの活用】

・上回っている。

今回の調査における課題

・【数と計算】では、四捨五入をして概数で表す問題の正答率が、全国平均より下回っている。

・【測定】では、単位や目盛り、経過時間を数量として捉えることや、時刻と時間を区別し、条件を整理して考えることに課題がある。

・【変化と関係】では、基準量（何を1とするか）を明確にして式を立てることや、基準量、比較量、割合の関係について、図や表を用いて考えることに課題がある。また、記述問題の無回答率も全国平均と比較して高かった。

改善の方向

・概数にする目的を意識することや、四捨五入する際に「どの位に着目するか」を判断する場面を授業で大切にしていける。

・時刻と経過時間を、数直線や図、時計から読み取ったり、ノートに書き表したりする活動に重点を置いて取り組む。また、実生活と関連付けて考える場面を意図的に取り入れていく。

・数量関係を図や表、グラフ、式などで表し、それぞれを結び付けて考える活動を大切にする。また、ノートに考えを書いたり、伝え合ったりする活動を取り入れることで、表現力を高めていく。

・学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する機会を設けることで、自信をもって、自分の考えを表現できるようにする。